
君に出会う冬の季節

IKA

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

君に出会う冬の季節

【Nコード】

N8270Y

【作者名】

I K A

【あらすじ】

季節は冬、全ての終わりが近づく。雪の季節。最後の季節に、俺は大切な出会いをする。その出会いは、今までの俺の人生を大きく変え、そして一つの奇跡を起こさせる。記憶を失い続ける少女と、記憶を失わない少年の出会い。この冬。溶けゆく雪の、溶けない記憶の物語が、始まる。『大切な記憶に、溶けない奇跡を』

まじろ色のプロローグ（前書き）

この小説は前作『君に出会う春の季節』と同様季節シリーズ。

短い雪の恋が今、始まります。

ましる色のプロローグ

雪が降っていた

それはいつ止むかも分からず、ただ深々と降り積もり俺たちを
ましる色に染めてゆく。

気づくころには、俺の肩には雪が積もっていた。

白く染まる吐息。

寒い。けれど、足を止めてはいけない。

だって俺は
けないから。

“ 約束の場所 ”

そこへ向かわないとい

傘も刺さずに、ただ深々と降り積もる雪の中を走り続ける。

まだ、間に合う筈だ。

まだ、助けられるはずだ。

まだ、奇跡を起こせるはずだ。

まだ、全てが終わった訳ではないのだから

初めて君に出会った時から、様々な感情が俺の中を駆け巡っていた。

だから、この想いを忘れたくないんだ。

この想いを、無かった事にしたくないんだ。

この　好きと言つ気持ちさを、忘れたくないから。

『はあ、はあ、はあ、はあ……』

そして俺は、ましろ色に染まる道を走り続け、海岸に辿り着く。

季節外れの海は、潮の香りと、強い風が頬に当たる。

そう。この場所が、約束の場所。

俺は更に走り、“君”を探す。

まだ、君が覚えてくれているのなら

必ずここにいるはずだ。

『はあ、はあ、はあ……　　そう、だよな』

そして俺が見つけたのは、一人の少女。

悲しそうな瞳に、雪のように白い肌。

弱々しいその姿は、今にも崩れてしまいそうだ。

『なんで・・・貴方は・・・』

君は、驚く様にそう言ったね。

『俺は、記憶力が良いんだって・・・言ったよな』

そう言って、徐々に君との距離を近づける。

奇跡を信じて

『雪希』

俺は、君の名前を呼んだ

溶けてゆく雪があっても、俺は

溶けない奇跡を信じて

まじる色のプロローグ（後書き）

こんな感じのスタートです。

感想など、どしどししてくださいー！

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8270y/>

君に出会う冬の季節

2011年11月24日18時52分発行